

産業建設委員会

議案第1号 新年度一般会計予算の審査

可決

さばえ菜花米のブランド化支援は？

問 菜花米生産の現状と、今後の支援策は。

答 平成30年の豪雪の影響で菜花が生育せず、菜花米の認定ができなかった。また、平成29年のいちほまれ生産開始により、今後県と市のブランド米政策のすり合わせが必要になる。

米の需要量が減少しており、良いものを作っても、競争が激しく高く売れないという社会的な事情もあるが、継続して米の品質向上を支援することで、引き続き、鯖江米のブランド化に取り組んでいきたい。



田んぼダムの整備予定は？

問 令和2年度は1,500万円が計上されているが、令和3年度以降の整備予定について、どのような計画になっているか。

答 令和3年度以降の具体的な整備箇所は、まだ決定していないが、令和2年度分の工事が完了すると、整備面積は市全体の約66%に達する見込みであり、今後も整備を継続し、最終的には、鯖江市の全圃場約2,000haを田んぼダムとして整備したい。

除雪車両の補償は？

問 民間事業者が所有している除雪車両を、市が借り上げる場合があるが、今年のように降雪がなかった場合、除雪車両の補償はされるのか。

答 道路除雪の委託契約には、市が車両を貸し出す契約と、民間事業者の車両を市が借り上げる契約の2種類がある。車両を維持するための保険料、税金、格納費用、償却費といったものを、基準に従い算定し、除雪の出動の有無にかかわらず、支払っている。

市内 民間事業者を支援する補助金制度は？

問 補助金の対象を、医療、ウェアラブル端末などの分野に絞った補助金制度を、ここ数年継続しているようだが、対象となる民間事業者が限られてしまうのではないか。

答 民間事業者が新しい分野に進出し、事業が軌道に乗るには、1年や2年といった短い期間では足りないと考えている。

ようやく芽が出始めた事業もあり、その事業が成功することで、一つの民間事業者だけでなく、市内の他の協力民間事業者にも広がり、産地全体の振興につながると判断し、事業を継続している。

問 産地内の同じ業種の企業のつながりは、どうしても下請けなどの縦の関係になりやすい。異業種であっても良いが、対等な関係のチームを作るような仕組みを構築できないか。

答 これまでに機械要素技術展への出展を3回助成対象としているが、これらの事業は、複数の企業が対等な関係で連携し、新製品の開発を行った事例であり、今後、このような取組が増えることを期待している。

